

# ヒチ



海外ウエディングのための案内スペースも充実したJTBの新店舗、トラベルデザイナー新宿二東京・新宿

を目指す。

個人旅行専門のJTBの新しい店舗、トラベルデザイナー新宿。この店のウエディングスペースでは、到着から結婚式までの流れや教会の様子をDVD画像で確認できる。パーシブロードを歩く花嫁の目線にカメラ位置が設定されるなど、実にきめ細かい。

「海外ウエディングは基本的に海外旅行。だから自由度とともに旅行自体の安心感を提供したい」と話すのはマネジャー波瀲郁代さんと、田辺祐子さん。

オーストラリアでのサービスがおもしろい。日本語の堪能なおーストラリア人女性二人がつき、到着から挙式まで日本的な感覚で世話をする。安心感とともに、海外ウエディングらしさを味わってもらおうのが狙いだ。

## ☆個性ある挙式も

現地在住の日本人ガイドをコーディネートするに、ドイツ・ホーエンツォレルン城などでの海外挙式を取り扱う、販売代理店のアーペーサー。大手が扱わない地域、城といった個人的な場所での挙式が人気で、中でも申し込みが多いのは「女性あこがれの地」タヒチだ。

同社社長でタヒチウエディングベル日本支社長も務める竹本良一さんは「タヒチはビーチリゾートの集大成。ここで挙式をする人は比較的年齢が高めで、旅行客もリピーターが多い」と話す。

同社はホームページでの営業活動が中心で、申し込みもネットからが圧倒的。インターネットの時代がここにも投影されている。

無料で、携帯電話からも利用できるなどの特長がある。

鳥原さん自身、網膜色素変性症という病気の視覚障害者。画面のデータを音声で読み上げるパソコンソフトを日常的に活用し、慶応大大学院で研究活動に取り組んでいる。ITの恩恵を受ける一人だが、現在の障害者支援技術には不自由さを感ずるといふ。

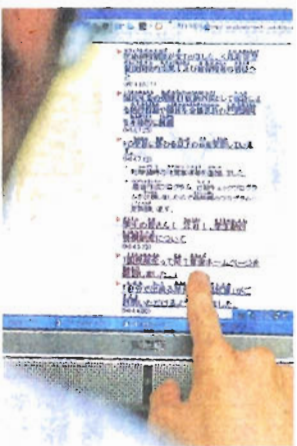
例えば、音声読み上げソフトでパソコン画面の意味をつかもうとする、文章を最初から最後まで聞いていなければならぬ。じれったいが、現状では障害者が、支援技術の仕様に合わせる形で利用せざるを得ない。鳥原さんは「パソコンの側が障害者の個別の状況を察知し、文字や音声、動画、静止画などを組み合わせ、必要な情報をその人の欲しがる形で自動的に提供する」というシステムを理想として思い描く。

「漢字が苦手」という人に合わせてルビを振り、読みやすくするサービスは「この構想の具体化の第一歩だ。今後は平仮名のルビの代わりに、英語や中国語など外国語の単語を表示したり、その単語に関連した画像や音声を付けたりするなど、利用できる人の範囲を拡大していくという。外出先で見掛けた看板などの文字もカメラ付き携帯電話で撮影してメールで送れば、ルビを振って読み方を教えるようなサービスの実現も目指す。」

# サイトに漢字に無料でルビ振り

## 万人のための支援技術に第一歩

学習障害で漢字の読めない人や外国人向けに、電子メールやサイト上の漢字に自動的にルビを振



上の画面を振って表示されるルビを、ホームページに漢字を表示

るサービスを、IT(情報技術)を活用した障害者支援に取り組む団体「アダプティブテクノロジー」が無料で始めた。同団体代表で、システムを開発した鳥原信一さんは、情報の提示の仕方を交換させるこの技術を開発して、「その人の障害の種類や程度、属性や好み、TPO(時、場所、状況)に合わせて情報を

提供できるようにしたい」と夢を語る。

利用者は一度ユーザー登録をすれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用するサーバーを経由してホームページを閲覧したり、メールを受け取ったりするだけ。使われているすべての漢字にルビが振って表示されるが、同じ機能の市販パソコン用ソフトと違っ